

万博公園探鳥会

2026年10月10日(土) 田中宏・中筋好子
橋本昌宗・大矢麻由美・玉置こるり・藤村和彦
鍋本光子・平軍二(090-6901-1425)

今月10月より鍋本光子さんに、探鳥会リーダーをお願いしました。よろしくお願いします。



← ↑ 20260911 橋本寿紀氏

I 万博公園の鳥第15回「ツメナガセキレイ」

漢字名 爪長鶉鴒

学名 *Amotacilla flava*

英名 Yellow Wagtail

ツメナガセキレイは1985年2月にスタートした万博公園探鳥会で観察したことのなかった初記録の鳥。9月探鳥会の前日9/11、橋本寿紀氏よりツメナガセキレイを観察したとの連絡を頂いたので、翌12日の探鳥会資料にプラスし、探鳥会では参加者全員で探したものの結局見つからなかった。記録に残しておきたいことから、今月の鳥としてツメナガセキレイを紹介したい。

9/11ツメナガセキレイは万博公園もみじ川周辺でハクセキレイ・セグロセキレイと一緒に行動していたが、両種に比し警戒心が強く近づくことはできず、何かに驚くと飛び立ち樹上にとまり、また戻ってきては場所を変えることをくりかえしていた。他のセキレイ類に比べ小さく、シルエットはタヒバリに似ていたとのこと、非繁殖期の姿でわかりにくかったようです。

ツメナガセキレイの英名はYellow Wagtailで、成鳥夏羽の腹部はキセキレイよりも鮮やかな黄色とのこと、一方キセキレイの英名はGrey Wagtail、腹部の黄色ではなく背中の色からつけられている。

ツメナガセキレイの生息範囲が広くポピュラーな鳥なので、日本での普通種キセキレイより先に名前が付けられたためでないと思われる。

和名ツメナガセキレイの名前は、後ろ足の指(後趾)の爪が他のセキレイ類よりも長く、直線的であることに由来しているとのことなので、標識調査等で確認されて名付けられたと思われる。

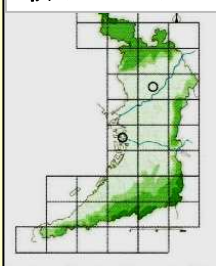
ツメナガセキレイが、今後も万博公園で観察できることを期待したい。

I ③大阪府鳥類 目録2016

ツメナガセキレイ

南港野鳥園'03.10、
'06.10、'13、8-9
高槻市三島江'12.10
夢洲'15.8

秋7/21~11/30

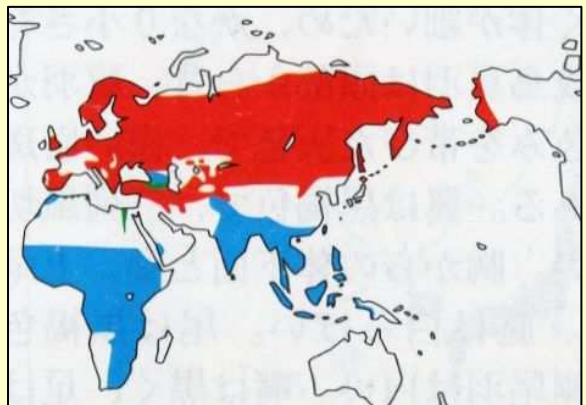


I ④世界の分布図 真木・大西 日本の野鳥 (2000年)平凡社

日本では繁殖地が北海道、越冬地が南西諸島

世界的にみると、繁殖地はアラスカ、そしてユーラシア大陸亜寒帯~温帯北部(ロシア~欧州スペイン)広く分布している

越冬地はフィリピン、
中国南部~インド、
更にアフリカ大陸中南部に広く分布している



Ⅱ 9月12日万博公園探鳥会記録 参加者29名

前日万博公園でツメナガセキレイを確認したと、橋本寿紀氏より連絡があり、探鳥会資料にツメナガセキレイを追加した。ツメナガセキレイは万博公園探鳥会で一度も観察していないこと、「大阪府鳥類目録2016」での観察例が数回しかない非常に稀な鳥が、今日も園内にいるかも知れないことを説明しスタートした。昨日ツメナガセキレイが確認された「もみじ川芝生広場」を中心に探したが、昨日と違い好天の土曜日、広場に人々が多かったためか見つからないまま終わった。

観察の森近くの樹木伐採地ではコシアカツバメが群舞していたが、双眼鏡で見るとユスリカが大発生しており、それを狙って飛び回っていることがわかった。しかもコサメビタキもユスリカ目当てが、何回も飛び回った。秋の渡りの小鳥はそのコサメビタキ(8羽)、エゾビタキ(2羽)、コルリ(1羽)、キビタキ(1羽)を確認することができた。

また園内でムクドリ50羽～100羽ほどの大群が何回も飛んだことから(ダブル・トリプルもあると思うが)335羽カウントした。久しぶりのゴイサギ(幼鳥)を含めアオサギ・ダイサギ・コサギとサギ4種、チョウゲンボウが2回上空を飛んだことなど、この時期としてはまずまずの33種を確認した。



上左 エゾビタキ
上中 エゾビタキ
上右 コサメビタキ
下左 チョウゲンボウ
下右 セグロセキレイ
写真 橋本昌宗氏



Ⅲ 次回万博公園探鳥会 11月14日(土)9:30～15:00

今月同様、大阪支部HPホームズ様式からお申込ください。

又は、平宛

メール g. 0501.hi@gmail.com

電話 090-6901-1425

で連絡ください。

右写真は昨2025年11月8日
万博公園探鳥会で記録された

ノゴマ(橋本昌宗氏)→

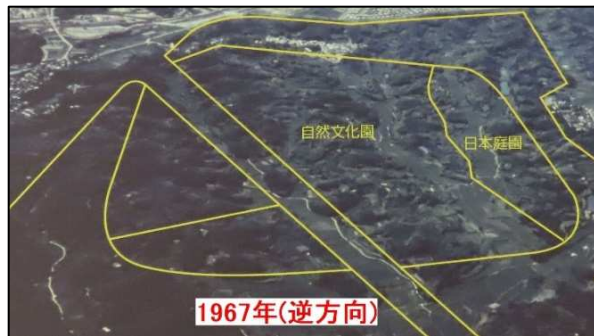
です。



1985年2月にスタートし42年目の万博公園探鳥会では初記録、それ以外には有賀憲介氏・橋本寿紀氏により、2018年10月・2019年10月・2029年10月と3回記録されているのみで4回目でした。今年はどうでしょうか。

Ⅲ ①万博公園の変化(1967年～2020年)

万博公園内の自然観察学習館に、1967年(万国博覧会が開催前)～2020年(万国博覧会開催後50年)の航空写真が展示してあり、その写真を並べてみました。



①1967年 万博開催前は里山・里地



②1970年 北側ソ連館 南側にアメリカ館



③1974年日本庭園は緑、自然文化園は更地



④1981年自然文化園が少し緑色に



⑤2000年木々が大きくなり芝生広場・花の丘以外は樹林に



⑥2020年さらに緑が濃くなる

Ⅳ②万博公園探鳥会の鳥

万博公園探鳥会開始当初、上記④の状態、自然文化園に植えられた木々の隙間が草原状態にあり、キジ・コジュケイ・モズ・ホオジロなど草原の鳥が多かった。その後⑤の状態になり、キジは2008年にいなくなり、ホオジロも観察できなくなった。それとともに林の鳥、ヤマガラ・コゲラなどが定着した。1970年から56年、万博公園探鳥会で観察できる鳥は、林の鳥観察が中心になっている。



エゴノキの実を啜えたヤマガラ20251108(橋本昌宗氏)

IV 万博公園探鳥会 観察鳥チェックリスト(第8版ベース)

万博 NO	第8 版	種名	2025				2026				万博 NO	万博 NO	第8 版	種名	2025				2026				万博 NO
			9	10	11	12	9	10	11	12					9	10	11	12	9	10	11	12	
1	21	オシドリ									1	56	456	ヒヨドリ	9	33	38	49	17				56
2	23	トモエガモ									2	57	461	ツバメ	3				4				57
3	27	オカワシガモ									3	58	462	イワツバメ									58
4	28	ヨシガモ				6					4	59	463	コシアカツバメ	4				21				59
5	29	ヒドリガモ			5						5	60	464	ウグイス		1	3	4	1				60
6	32	カルガモ	6	13	12	18	4				6	61	466	ヤブサメ									61
7	33	マガモ				2					7	62	467	エナガ	15	25	7	2	4				62
8	34	オナガガモ									8	63	478	センダイムシクイ									63
9	35	コガモ				2					9	64	479	エゾムシクイ									64
10	39	ホシハジロ									10	65	481	メボソムシクイ									65
11	43	キンクロハジロ									11	66	482	オオムシクイ									66
12	56	ミコアイサ									12	67	484	オオヨシキリ									67
13	69	アマツバメ									13	68	501	メジロ	18	9	5	9	27				68
14	82	ツツドリ									14	69	507	ムクドリ	235	43		10	335				69
15	89	キジバト	3	5		2	3				15	70	509	コムクドリ									70
16	93	アオバト									16	71	514	トラツグミ									71
17	96	クイナ									17	72	526	シロハラ									72
18	100	バン	1								18	73	527	アカハラ									73
19	101	オオバン									19	74	531	ツグミ			13	10					74
20	117	カイツブリ	11	8	9	5	7				20	75	532	ハチジョウツグミ									75
21	119	カンムリカイツブリ									21	76	533	エソビタキ					2				76
22	120	ケリ									22	77	537	コサメビタキ	4	3			8				77
23	134	イカルチドリ									23	78	539	オオルリ									78
24	135	コチドリ									24	79	545	コマドリ									79
25	163	トウネン									25	80	550	キビタキ					1				80
26	183	タシギ				2					26	81	556	ルリビタキ									81
27	188	イソシギ									27	82	561	ジョウビタキ			6	3					82
28	213	ユリカモメ									28	83	564	イソヒヨドリ	3				1				83
29	315	カワウ	3	3	3		1				29	84	568	ノビタキ									84
30	328	ゴイサギ					1				30	85	574	ニューナイズメ									85
31	333	アオサギ		1	1	1	2				31	86	575	スズメ	118	34	17	51	22				86
32	335	ダイサギ	1				2				32	87	584	キセキレイ	1	2		2					87
33	337	コサギ					2				33	88	585	ハクセキレイ	31	37	17	15	21				88
34	343	ミサゴ									34	89	586	セグロセキレイ	2	1	1		2				89
35	344	ハチクマ									35	90	581	ビンズイ									90
36	352	ツミ									36	91	585	タヒバリ									91
37	353	ハイタカ			1	3					37	92	587	アトリ			2	13					92
38	354	オオタカ									38	93	598	シメ				1					93
39	359	トビ		1	1						39	94	600	イカル		4	2	1	3				94
40	363	サシバ									40	95	608	カワラヒワ	99	9	15	20	1				95
41	366	ノスリ			6						41	96	618	ホオジロ									96
42	384	カワセミ	1	1	5	3	2				42	97	625	ガンシロ									97
43	389	アリスイ									43	98	633	アオジ				8					98
44	390	コゲラ	6	5	5	5	4				44	99	11	ドバト	0	0	0	0	0				99
45	402	チョウゲンボウ	1	1			2				45	100	25	ソウシチョウ									100
46	407	ハヤブサ									46			カクコウSP									
47	411	サンショウクイ									47			ムシクイSP	1	1							
48	412	リュウキュウサンショウクイ									48			タカSP									
49	419	サンコウチョウ									49	101	26	ハシビロガモ		1							101
50	425	モズ		7	3	2					50	102	543	ノゴマ			1						102
51	435	ハシボンガラス	23	12	19	11	17				51	103	544					1					103
52	436	ハシブトガラス	18	42	69	52	32				52	種類数(種)			28	29	29	32	33				
53	439	ヒレンジャク									53	個体数(羽)			985	314	283	337	569				
54	442	ヤマガラ	5	5	4	6	11				54	天候			晴	曇	晴	晴	晴				
55	447	シジュウカラ	13	13	13	21	8				55	参加者数(人)			18	28	35	22	29				